

# 訪問看護ステーション 連絡協議会だより

## 第27号

発行年月 2014年2月  
 発行所 岡山県訪問看護ステーション  
 連絡協議会  
 〒700-0805 岡山市北区兵団4-39  
 岡山県看護研修センター3階  
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681  
<http://okayama.houmonkango.net/>  
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp  
 発行責任者 石本 傳江

### 新年のご挨拶 法人2年目を 駿馬の如く駆けあがる年に



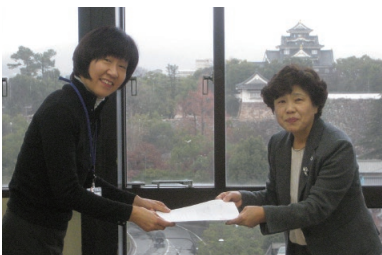
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 石本 傳江

人化を果たし、事業活動も活発となった1年でした。訪問看護の持つ多くの課題検討を行い、災害対策マニュアル準備のためのシンポジウム開催や、岡山県長寿社会課への初めての要望書の提出を行いました(写真)。皆様には各事業に対しまして、多大なご協力を頂き誠にありがとうございました。

新しい年は1年間の体験と実績をもとに、職能集団として一層の発展をはかり、午年にふさわしく、飛躍の年になることを願っております。社会的要請の面からも超高齢化社会に対応できる環境づくりを目指して活動を充実させてまいります。方向性として、訪問看護の社会的浸透、一貫した研修体制の確立、各ステーション支援体制の強化等が挙げられます。本年もご支援・ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

最後になりますますが、皆様にとりましてこの1年がご健勝で明るい年になりますように祈念いたします。



### 平成26年度年間研修計画 (案)

※講師および場所の詳細は交渉中です。

| 日程               | テーマ / ねらい                                | 場所 | 日程                        | テーマ / ねらい                                         | 場所 |
|------------------|------------------------------------------|----|---------------------------|---------------------------------------------------|----|
| 平成26年<br>7月      | PD基礎講座<br>PD療法の基礎知識を学ぶ                   | 岡山 | 12月<br>土曜日                | 在宅における精神看護の実際<br>在宅における精神科領域の知識を深める               | 岡山 |
| 8月<br>9日(土)      | 他職種との連携 賛助会員情報提供<br>他職種連携について学び、在宅看護にいかす | 総社 | 平成27年<br>11月24日<br>(土) PM | 検査データの基礎知識<br>正しい検査データの見方を学び<br>病状の把握に役立てる        | 岡山 |
| 10月<br>5日(日)     | フィジカルアセスメント<br>臨床に役立つフィジカルアセスメントの基礎を学ぶ   | 津山 | 2月<br>28日(土)              | リハビリテーション ポジショニング<br>拘縮予防のポジショニング<br>及び安全な移乗方法を学ぶ | 岡山 |
| 11月<br>土曜日<br>午後 | 褥瘡セミナー<br>訪問看護における褥瘡予防について理解する           | 岡山 |                           |                                                   |    |

#### 訪問看護ステーションあんど

管理者 木村 直美

平成24年10月、自然豊かなこの倉敷市真備町に和葉会「まび記念病院」を母体とし開業いたしました。

安心(安堵)できる在宅で安心(安堵)できる家族と共に自分らしく笑顔で生活できるようにをモットーに、スタッフ一同未熟ながら切磋琢磨し、様々な方に支えられ頑張っております。

今まで真備地区に訪問看護ステーションが無く、地域の方々にも「訪問看護って何?」と聞かれることもしばしば・・・訪問看護の周知の為に一人ひとりの声を大切に、各事業所様と連携し切れ目のない地域医療を目指していきたいと思っています。

#### 新設の ステーション 紹介

#### ニチイケアセンター 岡山南訪問看護ステーション

代表 高本 辰美

平成24年11月に、岡山市北区下中野に介護事業を展開しているニチイに訪問看護ステーションが開設致しました。

当ステーションでは、「誠意・誇り・情熱」を社是とし、他の在宅介護支援サービスと連携を取りながら、ご利用者様が安心した在宅生活を送れるよう支援していきます。

まだまだ未熟ではありますが、研修会への参加や、ニチイの介護スタッフと共に、勉強会を開催するなど、スタッフ一同質の向上を目指し、日々努力しております。

ご利用者様の笑顔や感謝の言葉に励まされながら、地域に愛される訪問看護ステーションを目指して参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

### 「高校生の見学を受け入れて」

訪問看護ステーションあゆみ 管理者 篠井 恵理子

とある普通科高校の学生さんから、「在宅に興味があるので、現場を見たい!」と連絡があり見学を受け入れました。

「大学に行って、看護を学びたいんです。」と話す彼女は、高校3年生で看護師志望。

100歳近い利用者さんの所に伺い、一緒に清拭などさせて頂きました。利用者さんはケアの間、じっと学生さんを見つめておられました。曾孫さんと同じ歳の学生さんに「ありがとう、頑張ってください」とにっこりされました。

学生さんより、「訪問看護のどこが好きですか?」と聞かれ、たくさんの人を一度に看るのではなく、1時間でも一人のために関わるところ。人が生きるたくましさや、人とのつながりの面白さを感じるなどお話しさせて頂くと、きらきらした瞳で話を聞いて下さり、こちらもうれしい気持ちになりました。

地域が好き、人が好き。とても素敵な笑顔で話す学生さんに、さわやかな風を頂きました。

がんばれ未来の看護師さん♡



ステーションからの  
リレーだより



### 「ある日の訪問から」

創心会訪問看護ステーション 管理者 宇野 百合子

週3回の透析を受け人工肛門を装着している女性の利用者さんがいます。高齢になったことでかなり不自由になり転倒リスクも高く、今回も転倒による脳内出血で入院されました。パウチ内の便処理もできなくなったことからサービスも1日2回入るようになりました。ご主人がずっと暴力的だったこともあり、お二人の関係はなんとなく外見的にはギスギス感が続いています。そんなある日、ご主人の口から「不自由になってしもうて・・・ご飯も食べれんからわしが食べさせたんじゃ・・・自分がひもじいのは我慢するけど、これは透析に行くから可哀そうだなあ」という言葉がポロリとこぼれました。ご本人に確認するとご主人に対して「ありがとう」と言ったことがないとのこと。タイミングを見計らって謝意を伝える様に促すと、大きなはっきりした声でご主人に「お父さん!ありがとう」と泣きそうな顔で言われました。耳の遠いご主人にもしっかり伝わったようで、一瞬ハッとされましたが・・・しばらく二人の間に暖かい空気が流れて、私も一緒にうるうと涙ぐんでしまいました。私の訪問車を玄関の外でずっと見送っているご主人の姿をルームミラーに観ながら、在宅での私たちの役割には、様々な家族関係の中での潤滑剤の役割もあるとしみじみ感じ訪問看護の奥深さを思いました。

### 栄養士さんの力で おいしく食べる支援を! ～栄養士さんからのメッセージ～

在宅栄養ケア活動支援整備事業 ワーキンググループ  
玉谷 弘美 (当協議会 副会長)

公益社団法人岡山栄養士会は、岡山県栄養ケア・ステーションを開設し、人々の健康・栄養状態、QOLの向上に向けて、生活習慣病予防事業や食育促進事業、高齢者の栄養改善による介護予防等に取り組んでいます。

また、本年は厚生労働省から補助を受け、管理栄養士が患者さんのご自宅へ伺い、患者様個々の状態に合わせた食事支援を行う事業を行っています。主に在宅で療養されているガン患者さん、脳血管障害の後遺症等で摂食や嚥下が困難な方、加齢による低栄養状態の高齢者が対象となります。

主治医の先生から指示書をいただきますが、患者さんの自己負担はいっさいかかりません。

在宅訪問栄養指導を行う管理栄養士は一定の研修を修了しております。

なお、この事業は平成26年3月までとなりますので、この機会に是非、ご利用ください。

### 「課題検討委員会の進捗報告」

課題検討委員会 委員長 高瀬 佳代

今年度県から訪問看護支援事業の委託を受け、課題検討委員会を設けました。昨年4月に各ステーション管理者宛てに現在困っている事に対するアンケートを実施いたしました。回収率70%と多くの管理者から返答をいただき大きく3つの課題がありました。

①マニュアル作成(災害) ②人材確保 ③利用者確保です。

①については、昨年12月8日に県立大学で実体験を講演していただき、午後からは地区別に災害ワークシート作成に取り組んでいただきました。これをもとに災害発生に備えるマニュアル作成にあたっています。

②については、勤務する新人を対象としたものです。寸劇も用意して、長く勤めてもらえるために何が求められるのか現場の声を聴かせてもらいます。

③の利用者確保に関しては管理者交流会を2月に予定しています。どの課題も個々で考えるのではなく、顔を合わせて互いに協力して解決に結べればと思います。

## 「最後まで自宅で」

倉敷訪問看護サービスセンター  
利用者 S氏

利用者の声

93歳が過ぎても排泄の失敗がないことが自慢な母は、足が痛く歩行には苦慮しており、長い間訪問看護のお世話になりました。

健康管理やリハビリと共に、絵を描いたり歌ったり、何度も繰り返す昔話にも、看護師のTさんは本気で耳を傾けて下さり、母には、楽しい、私にとっては息抜きの時間でした。

やがて、車椅子から寝たきりの生活となり背中への軽い擦り傷が褥瘡となりました。Tさんの早期発見と、週3回の訪問時の手当て、ケアマネのNさんの迅速なウォーターベッドの手配など親身になって考えて頂き、辛いはずの介護ですが、心穏やかに、母への愛しい思いを抱えて介護することができました。

母が亡くなった日も、体調の異変にいち早く気づいて下さったのもTさんでした。母の死など考えられず、うろたえる私でしたが、Tさんたちスタッフの方々が、母の旅立ちの世話を家族と共にしてくださり、心強かったです。最後まで皆さんに支えられて、安心して、母と家族が望んだ「最後まで自宅で」を叶えることができたことを心から感謝しています。

きずなの会という患者会の会長をしています。会員は80名で、介護を語る会、バス旅行、講師を呼んで介護方法や病気についての学習会、対市交渉などを行っています。

私も13年前から父と母の介護をしていました。父は母よりも先に病院で亡くなりましたが、母は自宅で看取りました。92歳でした。訪問看護に来てもらう前は、不安で救急車を6回も呼んだことがありましたが、色々アドバイスしてもらってとても助かりました。

母は腎不全があり透析をしなければいけない状態になり、透析をするか、このまま自然に看取るのか選択に迫られました。一人で悩み自分では答えが出せず、母に直接聞くと、透析しなかったら死ぬことも理解したうえで「もうええわ」と言いました。母はベッドに正座し「頭がしっかりしている時に言っとく。今



水島虹の訪問看護ステーション 利用者 S氏

度入院したら帰れないと思う。長々お世話になりました。」と言われ、今までの介護の苦勞が報われた気がしました。その時は、病院で看取るとしていましたが、往診の先生と訪問看護に支えてもらい自宅で最期を迎えることになりました。自宅での看取りは不安も大きく、呼吸の変化を見ていられずに救急車を呼ぼうかと思った時もありましたが、最期の体の変化を説明してくれたり、話を聞いてもらったり、もうすぐ訪問看護が来てくれると思ったら頑張れました。

最期はふと夜中に目が覚め吸引をした後、間もなく息を引き取りました。亡くなった時は、悲しむ暇もなかったのですが、3か月くらいし、もう家にも病院にも母はいないんだと実感し、やっと涙が出て胸のつかえがとれたことを覚えています。

訪問看護に期待することは、気軽に相談にのってもらうこと、大したことなくても不安な時には来て、顔を見て声をかけてもらうことです。

これから皆さんに伝えたいことは「がんばらない介護」です。介護の大変さが骨身にしみているから少しはアドバイスができると思います。その為に、みなさんが救われるような患者会づくりを続けたいと思っています。

## 訪問看護プチ体験研修事業を開催して

岡山市医師会訪問看護ステーション 管理者 古市由香

平成25年9月17日を含め4日間、情報交換会と実習を行いました。

今年初めての試みで行われ、参加者10名でした。受講者は「訪問看護をやってみたい、受講前のマイナスのイメージは変わった!」という意見が聞かれた。10名のうち1名が実際に就職に繋がった。今年度、岡山県からの委託も受け訪問看護一日体験研修を行っている。来年度も継続的に行い、訪問看護師が1名でも増え、訪問看護ステーションが飛躍し、療養者様の笑顔が増えることを切に願います。



## プチ体験感想

受講生 大川匡代

私は両親の介護を通し、訪問看護の世界に興味を抱いていました。しかし、出産・子育てを機に看護の仕事から離れ10年という歳月が経っており、もう看護の仕事に戻ることは無理だろうと諦めていました。そんな時に目にしたのが、「訪問看護を体験してみませんか?」という市の広報記事「訪問看護プチ体験研修会」でした。2日間の実地体験で、看護技術から訪問時の接遇等、一つ一つ丁寧に教えて頂きました。そして体験後も、情報交換会で疑問や不安の一つ一つ応えて下さいました。この研修で私は、訪問看護の仕事の大変さと共に、それ以上の看護のやりがいを感じました。しかしやはり10年というブランクのある私では無理ではないかと思ひ悩みました。そんな私に、指導者の方が贈って下さった言葉があります。この言葉を、私のように一歩踏み出せない方に贈りたいと思います。「自信をもってそこにいて、力まなくても、あなたは看護師(季羽倭文子先生)」訪問看護体験の機会を下さった関係者皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 「認知症の症状と対応について」研修に参加して

児島中央訪問看護ステーション 管理者 服部 南



11月10日総社市福祉センターにて認知症の研修に参加しました。今回のテーマでもある「どうすりゃええん？認知症」といった感じで毎日対応に苦慮しています。講師の浅野先生はとても地域医療に積極的で認知症の対応も家族や訪問看護師等、利用者を取りまくすべての関係者に情報共有や対応をされており、わかりやすく症状や対応を講義していただきました。

また、昼からの事例検討では、総社市の市の職員や地域包括支援センターの方もグループワークに参加してください、地域で認知症利用者を支えていく体制についてたくさんの意見が聞けてとても内容のあるグループワークでした。高齢化が進み年々増え続けている認知症利用者ですが、認知症の理解と対応を学び、一人の人として尊重し地域で支える体制作りをしていきたいと思っています。

by コールセンターおかやま

大野 幸恵・徳永 千栄子

### 訪問看護 Q&A

**Q：がん末期の方が退院するので、退院時共同指導を2回行った。退院時共同指導加算を2回算定したが、特別管理指導加算も2回取れるのか？**

**A：特別管理指導加算とは、退院時共同指導加算の上乗せの評価と考えます。**

退院時共同指導加算とは別に特別管理指導加算として2000円加算ができます。

2回行えば2回算定ができます。

**Q募集中!!**

いつもありがとうございます！  
羽毛ふとんの東洋羽毛です！



東洋羽毛は『快適な眠り』を通じてより多くの方に愛されるよう心掛けてまいります。今後ともよろしくお祈りします。



東洋羽毛中四国販売(株)岡山営業所  
〒700-0845 岡山市南区浜野4-3-37  
フリーコール 0120-22-4711

### 「人工呼吸器に慣れよう」を受講して

訪問看護ステーションあおぞら 管理者 塚本晴美

平成25年9月1日(日)真庭市久世のエスパセンターにて「人工呼吸器に慣れよう」の研修会が開催されました。前日からの台風の影響が心配されましたが、44名と多くの方が参加されました。午前中は金田病院の慢性呼吸器疾患看護認定看護師、中西直子先生の講義がありました。認定看護師としての病院での取り組みや、慢性呼吸器疾患患者さんの症状による観察ポイント、退院に向けての療養指導、家族指導、そして事例紹介等盛りだくさんの内容でした。午後からは、フクダライフテック及びフィリップスの方による人工呼吸器についての講義の後、実際に器械にふれたりマスクを装着するなど体験させていただきました。体験することで利用者様の苦痛や大変さが少しでも理解出来たと思います。研修後のアンケート結果からも、大変満足した52%、まあまあ満足した38%と多くの方が満足した研修会となりました。

### 「訪問看護事業者賠償責任保険 事故発生状況のまとめ」

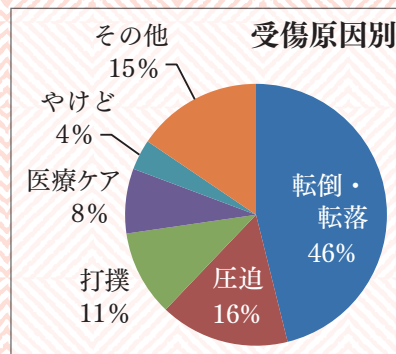
(三井住友海上火災保険株式会社 有限会社訪問看護事業共済会)

—訪問看護ステーションニュースより—

あいの里訪問看護ステーション 管理者 藤原 洋子

H20年から5年間で766件の事故が発生しており、約1億3,600万円の保険金が支払われている。

受傷原因別では、転倒・転落事故の割合が最も高く、4割以上を占め、そのうち歩行訓練中やストレッチ・マッサージ中などのリハビリ事故が約25%を占めている。



●今後の事故防止の取り組みとして、医療関連事故の割合は約1割弱で、ほとんどが生活支援や介助中の事故で、特に「歩行訓練中」や「移動介助」など利用者が不安定な状態が多く、あらかじめリハビリ中は転倒するリスクを想定しておくことが重要である。また、高齢の方は骨折するリスクが高く、転倒のみならずストレッチやマッサージ中も注意深く力の加減を調節する必要がある。

編集 後記

厳しい寒さや一日ごとの気温の変化に体調をくずさされている利用者様もいらっしゃるのではないのでしょうか？インフルエンザやノロウイルスなど、気がかりな事はありませんが、笑顔で元気に頑張ってください！

広報委員